

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成17年度技術情報第4号（イチゴの炭疽病）について（送付）

このことについて、イチゴの炭疽病に関する情報をとりまとめましたので送付します。

平成17年度 技術情報第4号
（イチゴの炭疽病）

7月12～19日に行った巡回調査で、育苗床における発生ほ場率が83%（平年30%、前年56%）と高く、今後本ばにおいて多発することが懸念されます。発病し萎凋した株の除去や、薬剤散布等の防除対策を徹底してください。

1. 対象作物 イチゴ

2. 対象病害虫 炭疽病

3. 予報の内容

- (1) 対象地域 県本土
- (2) 発生量 多

4. 予報の根拠

7月12～19日に行った巡回調査で、育苗床における発生ほ場率が83%（平年30%、前年56%）と高く、今後本ばにおいて多発することが懸念される。

5. 防除上注意すべき事項

- (ア) かん水や降雨による水滴の跳ね返りで伝染するので、発病し萎凋した株は直ちにほ場外に持ち出し処分するとともに、葉に病斑を認めている株は罹病葉を除去し（別添資料参照）、健全な苗と分けて管理する。
- (イ) 予防的な薬剤散布に努め、薬剤は株元を中心に少なくとも10日おきに定期的に散布する。特に降雨後や摘葉した後などは、伝染し易いので速やかに散布する。

表 いちご炭疽病の発生状況

調査場所	調査ほ場数	発生ほ場数(%)
伊集院町中川	4	4
さつま町平川・湯田	7	5
有明町野上	7	6
計	18	15 (83)

(7月12～19日調査)

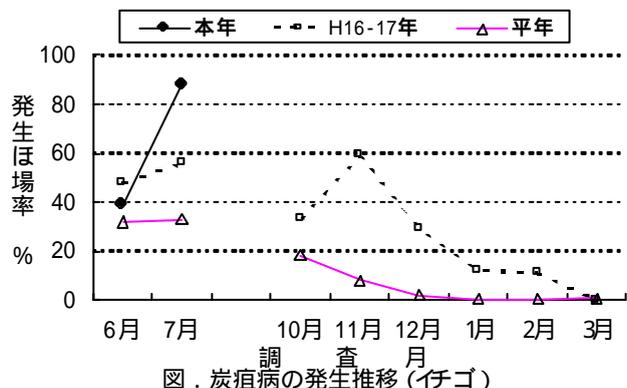


図. 炭疽病の発生推移 (イチゴ)

【本炭疽症状】

Colletotrichum gloeosporioides



【葉炭疽症状】

Colletotrichum acutatum



〔ハロー（黄色い帯）を伴わない汚斑状の斑点がでる。周りの健全な部分との境がスタンプで押したようにくっきりしている。〕

〔葉の葉縁が褐変し、葉の生育とともにちぢれる。〕

【炭疽病と間違いやすい病害 - 輪斑病】



〔はじめ紫赤色の小斑が発生し、葉脈に達すると進展が早まり、くさび形になる。〕